

『小児感染症の微生物検査の進め方』（1版1刷） 正誤表

いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。

当該書籍に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともにここに訂正いたします。

[追補]

■p.25

●真菌感染症の診断

・深在性真菌感染症で、血液培養が診断に役立つのは、カンジダ血症とフサリウム症である。これらの血液培養の結果は、酵母様真菌と報告される。フサリウムは、血液培養陽性になった時点でボトル内容液をグラム染色すると、酵母様に見える。培地上で増殖させ、菌糸が伸びることで、糸状菌と判明する。

■p.29

●真菌の場合：酵母様真菌と報告されるフサリウム (*Fusarium*) 属やカンジダ属は (図 2⑤⑥)、グラム染色の形態のみで菌名の推測は難しい。血液寒天培地やクロモアガーカンジダ培地に塗布してコロニーを単離し、その形態から鑑別を進める。フサリウムは、血液培養陽性時にグラム染色では酵母様に見えるが、培地上に増殖させると糸状菌と判明する。

[正誤・追補]

■p.28 図 2

【誤】

⑥フサリウム症

酵母様真菌，血液寒天培地

【正】

⑥フサリウム症

糸状菌，血液寒天培地（血液培養陽性となった時点で酵母様でも，培地に増殖させて初めて糸状菌とわかる）

2023年4月時点